

避難の注意点

避難する時はこんな点に注意しよう

洪水の危険が迫ってきたら、次の点に注意し、冷静に状況判断しながら、安全な避難を心がけてください。

でも、ほんとうに洪水が起きそうになったら、どうやって避難するの？

まず落ち着いて正確な情報を入力すること。このページの手順とルールで、より早く、より安全に避難しようね！



1 雨が激しく降ってきたら…

雨や台風などの状況を、テレビ・ラジオ・インターネットなどで確認し、最新の災害情報を入手してください。また、市の広報車、警察・消防からの呼びかけにも注意を払ってください。



2 避難を始める直前に…

ガス、電気、火種を消して、避難場所を確認するとともに、万一途中で家族が離ればなれになったときの集合場所を決めましょう。



3 子供や高齢者などの避難は…

子供や高齢者、身体の不自由な方などは、避難に時間がかかるため、早めに避難させましょう。また、高齢者や身体の不自由な方などの避難にも、積極的に協力してください。



4 ペットがいるご家庭は…

避難するときは、ペット同行避難が原則です。同行避難する際には、キャリーバッグまたはケージにペットを入れ、餌やリード等をもって避難しましょう。また、事前にペット同行避難受け入れが可能な避難場所を確認しておきましょう。



5 避難のタイミング…

山形市から避難情報が発令される前でも、雨の状況から洪水の危険を感じたら早めに避難を開始します。となり近所の人と声を掛け合って避難しましょう。



6 避難中にも危険がいっぱい…

氾濫した水は濁っていて足元が見えません。避難中はできるだけ浸水していない場所を歩き、浸水している場所ではマンホールや側溝、水路の存在に注意しましょう。また、がけに沿った道は土砂災害の恐れがあるので大変危険です。



次のような避難は特に注意が必要です

車での避難

交通渋滞や緊急車両のさまたげにならないように、早めに避難するよう注意しましょう。浸水深が20cmを超える
と車の走行が困難
となります。



ひとりでの避難

ひとりで避難しようとすると、正確な判断や所在の確認が難しくなります。また、万一の事故のときに助けてくれる人が誰もいない場合もあります。避難は複数の人で行いましょう。



橋を渡っての避難

川が増水している場合は、橋が壊れたり流されたりする恐れがあります。避難経路に橋がある区域の人は、橋の安全を確認して、早めに避難しましょう。



川の近くを通っての避難

水量が増えて流れが早くなっています。落ちたりすると非常に危険なので、特に注意しましょう。



ようはいりよしゃ 要配慮者をみんなで守りましょう

高齢者や身体の不自由な方など、自力で避難することが困難で助けが必要な方には、日頃から積極的にコミュニケーションを図って、それぞれの人に適した誘導方法を確認し、早めに避難させましょう。



「要配慮者利用施設の一覧」
<https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/kurashi/bousai/1006404/1006407/1002191.html>

いざ!というとき、自力で避難することが困難な人を、みんなで助け合いましょう!



こうれいしゃ びょうき あし ふじゆう 高齢者・病気や足の不自由なひと

避難は複数の人で、移動が困難な人は、ひもで背負うなどして避難しましょう。車いすで階段を避難する際は必ず複数名が協力し、上りは前向きに、下りは後ろ向きにし、安全に配慮しましょう。



みみ ふじゆう 耳の不自由なひと

話すときは、近くまで寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。口頭で聞えない場合は、ペンで筆談し、ペンがなければ相手の手のひらに指先で字を書いて筆談しましょう。



め ふじゆう 目の不自由なひと

「お手伝いしましょうか」などと、まず声をかけ、話すときはゆっくり、はっきり、大きな声で。誘導するときはつえを持っていない腕のひじのあたりを軽く触れるか、腕を貸しながら半歩前をゆっくり歩いて誘導しましょう。



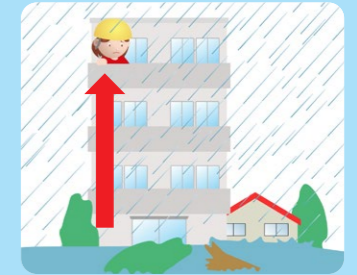
ちてき せいしん しょう 知的や精神の障がいのあるひと

「ゆっくり」、「短く簡単な言葉」で問いかけましょう。答えは、言葉に限らず相手の表情や身振りでも判断しましょう。触れられるのが苦手な方には避難の方向を指さすなど、身振りでも伝えてみましょう。



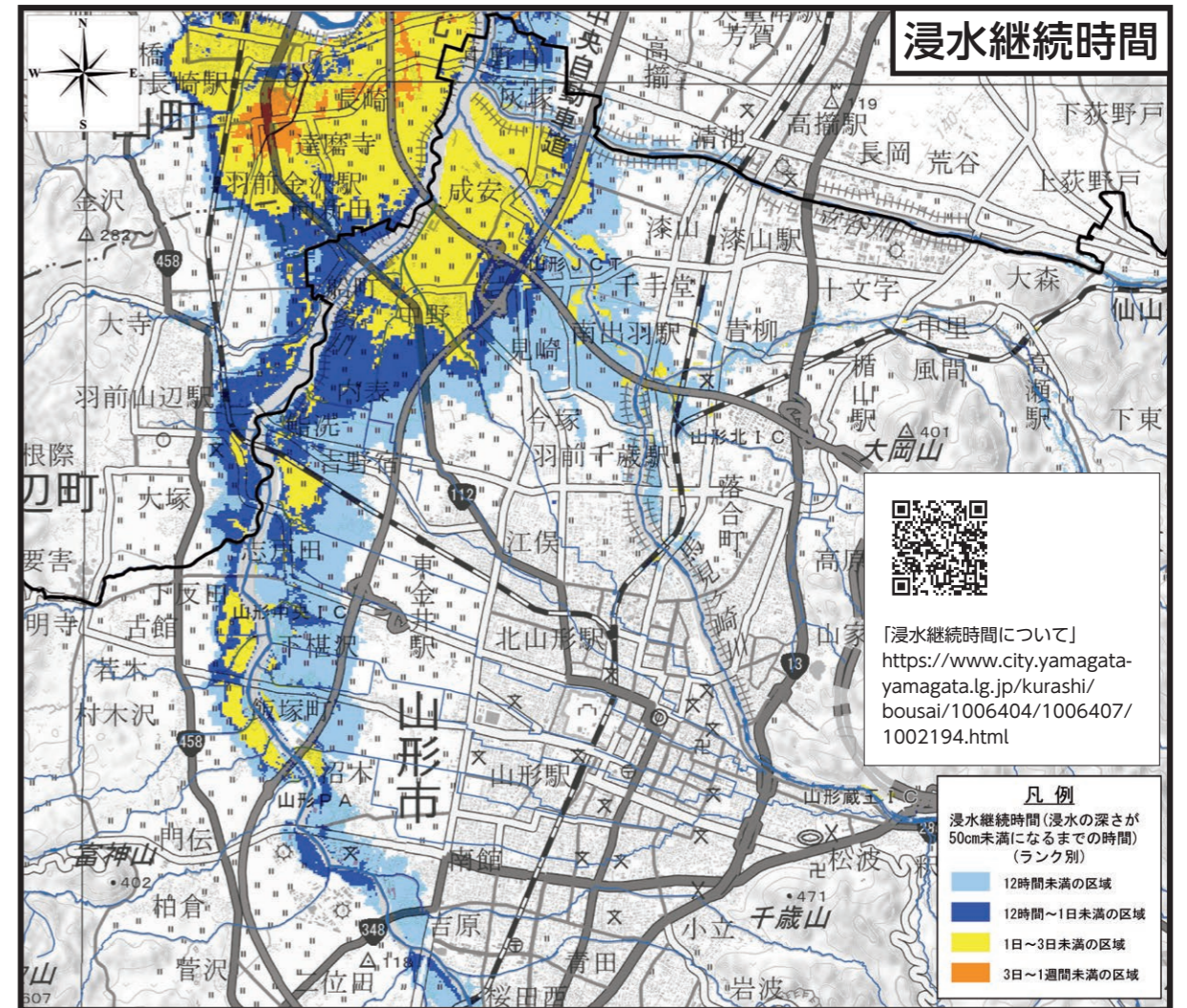
まん いちに おく 万が一逃げ遅れてしまったら

避難の基本は、浸水区域外への立ち退き避難ですが、立ち退き避難がかえって危険な場合は、近隣の安全な建物の上層階へ避難することも有効です。



しんすい ながび ばしよ じぜん かくにん 浸水が長引く場所を事前に確認しておきましょう

浸水深が浅くても長時間の浸水の場合は、ライフライン(電気、ガス、水道)の復旧に時間がかかり、生活に影響がでます。事前に「浸水継続時間」を確認しましょう。



●浸水が長期化した場合の危険性

浸水深が深い場合	・家から外に出られない ・水や食料が不足 ・衛生環境の悪化	高層階での課題	・エレベータが止まった場合、階段での移動となる ・水・食料等の救援物資が調達しにくくなる ・病人が出たとき、階段での移動は困難
電気、ガス、水道が止まる場合	・情報を得ることができない ・生活環境の悪化	孤立した場合	・体調を崩した場合の対応が難しい ・情報を得られない場合、不安になる

避難の注意点